

平成25年

- 1月27日(日) 25年新年会「浜千鳥」にて19人出席。自己紹介などの後、竹内令さんの音頭で「やまとだまし」の歌。川瀬顧問ご提供の資金の他、谷川法子さん御持参の品で福引後記念撮影。谷岡経津子顧問も出席。
- 2月4日(月) 書道コンクール作品整理(役員会後)
- 2月9日(土) 〆切後の書道コンクール作品整理(馬場代表宅)
- 2月24日(日) 10時～書道コンクール表彰式(応募合計452点) 於: 士清旧宅(4・5面参照)  
津市からは、葛西豊一副市長が出席。表彰後、審査員稲垣無得先生による講評。学校賞5校へ士清画像贈呈。津市教育委員会共催。
- 3月5日(火) 2/24から展示していた作品を学校別に仕分け、参加賞や欠席者への賞状など入れる。
- 3月9日(土) 谷川法子さんと共に、朝熊町岩本光生氏(谷川家の傍系)宅訪問。(馬場・佐野)  
会報「たまむしの森」14号発行。「まなびの葉」第2号刊行。4月の総会で配布の予定。

## 会員研修旅行 「内藤くすり博物館を訪ねて」

### —近代的設備の中にくすりのルーツをみた—

平成24年12月7日(金)「谷川士清の会」研修旅行として、岐阜県各務ヶ原市にある内藤記念くすり博物館に出かけた。医薬品メーカー「エーザイ(衛材)」を設立した内藤豊次の事業を記念する企業博物館である。木曾川を隔てた対岸に広大な敷地を持つ工場の一角に合掌造を模した博物館がある。

名鉄の江南駅からタクシーに分乗した10名(男2・女8)は、博物館で受付を済ませ午前中は博物館を見学。ロビーに展示されている大きな人車製薬機に驚きながら、まず常設展を見る。日本の医薬の歴史を【健康への願い医療のあけぼの、くすりを作る、くすりを商う、蘭方医学の伝来、彩る、くすり入れ、はかる、海外コレクション、近代の医療】の10のコーナーに分けて展示していた。江戸時代、病気の魔除けとして信仰の対象ともなった\*白沢(右上写真)やツボを学ぶための経絡人形、中国医学の古典『神農本草経』や『素問』『靈樞』などの版本類、生薬を押し砕く道具である薬研、富山の薬売りの背負行李等があった。江戸時代の蘭学、蘭方医学に関わる杉田玄白の『解体新書』、らんびき、華岡青洲の使った手術道具も展示されていたが、人体の腑分け図の生々しい絵巻もあった。

二階には今年度の企画展として「小野蘭山」展を開催していた。小野蘭山(1729～1810)は、本草学(薬用資源として利用できるものを研究する学問)を集大成した学者だが、若い頃、京都で松岡恕庵に学んでいた。偶々谷川士清も京都遊学中に松岡玄達に学んでいる。玄達の号が恕庵である。小野蘭山の研究は、全国各地に生薬を求めて歩いた実物主義であったが、その姿は『倭訓栞』においての士清の実証主義(資料となった文献をきちんと書く)につながるのではないかと思った。興味深い内容だった。

博物館から歩いて約15分程の工場関連施設で薬膳弁当の昼食をとった後、午後1時から工場見学をした。クスリ工場の見学ということで消毒等大変ではないかと心配したが、その心配は要らず、衛生的に設備された環境の中でコンピューター制御によって整然とクスリが製造される過程を、説明を聞きつつ俯瞰し学ぶことができた。

ほとんど自動化された作業ではあったが、時に紅色(女性)と緑色(男性)の姿(服装)を施設の中に見かけた。

おなじみのトラベルミン、ユベラ等のクスリと病院向けの胃潰瘍の薬をこの川島工場で作っていると聞いた。

工場見学の後は広い日本庭園を散策し博物館に戻る。玄関の前に広がる薬草園(冬枯れ状態)や温室(バナナやマンゴウが実をつけていた)を見て帰途に就く。津駅に5時頃到着。12月上旬でもそれほど寒くなく、雨も降らず、まずまずの天候、ゆったりと散策できてよかったと思う。今年度の研修旅行は、谷川士清の医師としての本業について学ぶ参考になり、大変意義深いものだったと思います。(2013年1月29日 山本浩子 記)

